

地域密着型サービス事業者 自己評価表

(認知症対応型共同生活介護事業所 ・ 小規模多機能型居宅介護事業所)

事業者名	グループホーム ともだちの家 ユニットⅡ	評価実施年月日	平成20年11月30日
評価実施構成員氏名	竹内 典子 長門 詠美子 大類 麻美 森 清美 菘嶋 智恵 三河 登世子 松本 敬子 西尾 文江 八嶋 さつき 今 かおり 千賀 克美		
記録者氏名	高橋 暁乃	記録年月日	平成21年1月15日

北海道

項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取組んで きたい項目)	取組んでいきたい内容 (既に取組んでいることも含む)
I. 理念に基づく運営			
1. 理念と共有			
1 ○地域密着型サービスとしての理念 地域の中でその人らしく暮らしていくことを支えていくサービスとして、事業所独自の理念を作り上げている。	およそ1年間をかけて、職員の声を拾いながら運営理念について見直しをおこなった。センター方式の理念を土台に、今現在のともだちの家に必要なことをまとめ、20年12月に新しい運営理念がようやく形になった。	○	今後、言葉の暗記をすれば良しではなく、運営理念の奥深い意味を職員全員が共通理解できるようになりたい。
2 ○理念の共有と日々の取組み 管理者と職員は、理念を共有し、理念の実践に向けて日々取り組んでいる。	朝の申し送りで唱和をするほか、スタッフ会議でとり上げている。	○	形ばかりの運営理念とならないように、日々の仕事は運営理念が反映されたものであると職員ひとりひとりの自覚に期待している。管理者・計画作成担当者と職員間で、個別の意見交換の場を望む声もある。正直なところ、社会人としての目線よりも、一個人として感情的な視点からものを判断する傾向が強い職員もいないわけではない。公平な立場での発言や提案は随時受け付けたいが、指をさして相手を批判するその指を自分自身にもさしてみる強い心も持って欲しい。
3 ○家族や地域への理念の浸透 事業所は、利用者が地域の中で暮らし続けることを大切にしたい理念を、家族や地域の人々に理解してもらえるよう取り組んでいる。	21年1月のともだちの家便りの第1テーマに運営理念の説明を載せた。利用者家族へ郵送のほか、町内会300世帯ほどの回覧板、市役所ロビー等への設置をおこなっている。	○	ともだちの家便りを通しての発信も一つの方法である。その他、実際の散歩・買い物・通院・外食などの機会に、地域の人々とふれあう中で”おたがいさま”の気持ちが生まれるように、すがすがしい態度を心がけている。
2. 地域との支えあい			
4 ○隣近所とのつきあい 管理者や職員は、隣近所の人と気軽に声をかけ合ったり、気軽に立ち寄ってもらえるような日常的なつきあいができるように努めている。	日常的に挨拶を交わしている。大根をいただいたり、動物好きな利用者にペットを見せてくれたり親切な方々に感謝している。	○	いただいた大根でつくった漬物をお返するととても喜んでいただいた。近所付き合いもすぐに深まるわけではないので、気軽に立ち寄ってもらえるように雰囲気作りに精を出したい。
5 ○地域とのつきあい 事業所は孤立することなく地域の一員として、自治会、老人会、行事等、地域活動に参加し、地元の人々と交流することに努めている。	町内会の運動会や防災行事、近くのデイサービスの盆踊りなどに参加している。また、クリスマス会を町内の子どもたちと一緒に開き楽しい時間を過ごしている。		
6 ○事業者の力を活かした地域貢献 利用者への支援を基盤に、事業所や職員の状況や力に応じて、地域の高齢者等の暮らしに役立つことがないか話し合い、取り組んでいる。	人材育成の一環として、ホームヘルパーの実習の受け入れをおこなっている。	○	ホームヘルパー研修受講生は地元の方が多く、ともだちの家のPRも兼ねて受け入れを続けている。時折、期待に応えきれず地域で不満をもらしている方もいると伝え聞くので、今後も実習内容や指導法など考慮を重ねたい。

項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取組んで きたい項目)	取組んでいきたい内容 (既に取り組んでいることも含む)
3. 理念を実践するための制度の理解と活用			
7 ○評価の意義の理解と活用 運営者、管理者、職員は、自己評価及び外部評価を実施する意義を理解し、評価を活かして具体的な改善に取り組んでいる。	全員で自己評価に取り組み、結果をふまえ反省をしている。その反省が改善へと向かうようになればなお良いことと思う。		
8 ○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている。	運営推進会議を開催し丸2年が経つ。1年目の様子から、一個人ではなく各団体やグループから、会議の都度異なる方に参加していただくようにした。また、会議形式のみではなく、行事への参加や感想アンケートなどを取り入れたりしている。	○	活発な活動と言いきれるほどの中身に成長していないことは否めないが、継続は力なりなので、参加者のみならず利用者・スタッフと相談しながら取り組んでいきたい。
9 ○市町村との連携 事業所は、市町村担当者と運営推進会議以外にも行き来する機会を作り、市町村とともにサービスの質の向上に取り組んでいる。	滝川市では、各グループホームの担当者を決めて対応してくれている。また市内事業所のケアマネージャーの会議が定期的開催されており、市担当者も出席している。		
10 ○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、地域福祉権利擁護事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、必要な人にはそれらを活用できるよう支援している。	該当者もおらず、学ぶ機会がない。	○	知識として知っておくべきだが、正直なところこの他に学ぶべき課題が沢山あり、勉強会のテーマに取り上げるには至っていない。詳しく掘り下げなくても、こういった仕組みがあることだけでも紹介できたらと思う。
11 ○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内で虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている。	虐待がテーマの研修に参加し勉強している。これは虐待、これは虐待ではないと区分けのつく事柄もある。反対にひとによっては虐待ととらえるが、別なひとは何も感じていないという事柄もある。その見極めのポイントを職員全員で共通の理解が必要に思う。	○	「虐待」という言葉が非常に広範囲の内容をさすことをまず学びたい。職員も人間なので、ストレスや悩みがあれば、喜怒哀楽さまざまな感情もある。しかし、それが虐待の理由とはならないので各々十分に気をはらいたい。残念だが利用者や周囲に、不快感や恐怖を与えてしまう職員が出てくれば、自滅して大きな事故や事件につながらぬように、冷静になる期間や学習期間を設ける。最終手段としては、皆の幸せのために別な道を勧めることも辞さない。
4. 理念を実践するための体制			
12 ○契約に関する説明と納得 契約を結んだり解約をする際は、利用者や家族等の不安、疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている。	契約や解約の際には、せかすことのないように十分に時間をとり説明している。書面については前もって写しを渡して目を通していただいてから、後日説明を加え質問に応じている。		

項目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取組んで きたい項目)	取組んでいきたい内容 (既に取組んでいることも含む)
13	○運営に関する利用者意見の反映 利用者が意見、不満、苦情を管理者や職員並びに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている。	思っていることや感じたことを言っている方もいれば、職員が気づきケアカンファレンスでも情報を出し合っている方もいる。 また、職員へは話さないが家族へ不満を話す方もおり、家族が情報を教えてくれることもある。	○	ユニット I では、訪問看護師がいいクッション役を担ってくれているようなので、定期的に訪れる外部者として協力してもらってはどうか。
14	○家族等への報告 事業所での利用者の暮らしぶりや健康状態、金銭管理、職員の異動等について、家族等に定期的及び個々に合わせた報告をしている。	家族の来訪時に声をかけ状況を伝えている。また、2ヶ月に1度のともだちの家便りで写真をおり込み様子を伝えている。この他、毎月あずかり金残高とレシート等を郵送し、受診や薬の残数なども手紙でお知らせしている。 職員の異動や採用・退職については随時知らせてはいるが、目にとまる場所に顔写真を掲示している。新年度にあわせ年に1度抱負コメントを含み職員紹介をしている。		
15	○運営に関する家族等意見の反映 家族等が意見、不満、苦情等を管理者や職員並びに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている。	家族からの意見・不満・苦情や、周囲からの評判など前向きに受け止めるよう努めている。連絡ノートやスタッフ会議などで周知している。		
16	○運営に関する職員意見の反映 運営者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている。	運営者や管理者は要望意見を聞くように心がけているようではあるが、なかなか不満や意見は言いにくい部分も多いので把握しきれていない。 隠されてしまう内容に大切なことも多く、知ったときには收拾をつけるのに容易でないこともある。 個人攻撃の域を脱して、冷静に会話ができるのであれば、運営者・管理者・計画作成担当者や職員間で、個人面談等も可能だと思う。	○	毎度、この項目に管理者も職員も少し気が重くなるが、組織のなかで活動する以上、永遠に解決されないテーマだと思う。 職員の「知りたいこと」「聞いてほしいこと」「話したいこと」「叶えてほしいこと」と、運営者や管理者の「伝えたいこと」「気づいてほしいこと」「学んでほしいこと」の差が縮まるように、お互いの歩み寄りが必要と思う。 現実として『折り合いのつけどころ』を探してしまうのだが・・・
17	○柔軟な対応に向けた勤務調整 利用者や家族の状況の変化、要望に柔軟な対応ができるよう、必要な時間帯に職員を確保する為の話し合いや勤務の調整に努めている。	考慮してローテーションを組むように努めている。 残念ながら、人手にゆとりのある時には仕事ぶりが落ちるとい声もある。わからないでもないが、そんなときこそ職員ひとりひとりの意識に期待して、利用者と同じく向き合うチャンスととらえてほしい。	○	甘えかもしれないが、職員も“暦どおり”の生活を望む気持ちはある。 土日祝・お盆・お正月など休みの希望が集中する時は、管理者・職員(正職員・パート職員)の区別なく、必要最小限の人数で交代勤務にあたる。 「土日は忙しい」「突然の行事や出来事があると大変」という声もモットもだが、毎回出番ではないし、利用者が24時間365日住み続けていることを忘れずにいたい。
18	○職員の異動等による影響への配慮 運営者は、利用者が馴染みの管理者や職員による支援を受けられるように、異動や離職を必要最小限に抑える努力をし、代わる場合は、利用者へのダメージを防ぐ配慮をしている。	基本的には同じユニットで勤務するようにしている。 退職等で人数やリーダー格の職員が片寄る場合には、やむを得ずもう1つのユニットへの異動がある。	○	利用者に対する影響への配慮はもちろんのことおこなう。 あわせて、グループホーム定員18名のみの小さな会社だからこそ、職員も異動に慣れておらず、運営者や管理者の予測以上にストレスを感じている。 働きぶりを認め期待しているがゆえの異動なのだが、落ち込みや不安が解消されるように励ましたい。

項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取組んで きたい項目)	取組んでいきたい内容 (既に取組んでいることも含む)
5. 人材の育成と支援			
19 ○職員を育てる取り組み 運営者は、管理者や職員を段階に応じて育成するための計画をたて、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている。	パート職員・正職員を問わず研修の機会がある。	○	内容によっては、研修レポート提出の他に皆の前で発表する機会があってもいい。 せっかくの学びのチャンスなので、向上心を持って参加できるように願いたい。
20 ○同業者との交流を通じた向上 運営者は、管理者や職員が地域の同業者と交流する機会を持ち、ネットワーク作りや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている。	市内の他のグループホームの行事に参加したり、こちらも招いたりしている。 また、「北海道認知症高齢者グループホーム協議会」と「滝川地域介護サービス事業者連絡協議会」に加入して、情報を得たり会主催の研修に参加している。	○	特に、他のグループホームとの交流や見学を求める声が大いだが、回数としてはまだ少ないので今後も調整したい。
21 ○職員のストレス軽減に向けた取り組み 運営者は、管理者や職員のストレスを軽減するための工夫や環境づくりに取り組んでいる。	ストレスの中身も軽減法も多種多様で万能ではないだろうが、スタッフ親睦会を設け食事会などでおいしいものを食べ飲酒し無礼講で楽しみ気分転換を図っている。 また、休憩室や喫煙場所も確保しており自由に使っている。 出入りの食品業者(ストア・魚貝類の行商)が来る時も、職員個人の物も好きに買えるようにしている。	○	運営者が常駐していないため、勤務の都合で食事会に参加できない職員は、ゆっくりと話す機会がない。 相談ごとを直接言うことができず、個人的なつながりを通して伝える職員もいるようである。 運営者の方針や諸事情もあるが、足を運ぶ機会を増やしてもらいたい。
22 ○向上心をもって働き続けるための取り組み 運営者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、各自が向上心をもって働けるように努めている。	健康診断、有給休暇などは適切に実施されている。 介護に関する資格取得に関しては、試験に向けての休み調整や、情報など知りえる限りのことは伝えている。 また、持っている力を存分に発揮できる者もいれば、本人の空回りや楽な方に流されがちな部分を、運営者・管理者も前向きに導ききれていない職員も存在する。	○	職能評価をおこなっているが、数値で表せる項目もあれば、そうではない項目もある。昨年「自分自身の自己評価」として評価項目を公表しているため、大切なポイントを知り、精進してもらえるとありがたい。 ありのままの勤務態度が運営者に伝わることを望むのはみな同じ。 アピールの上手下手もあるだろうが、結局のところは「利用者が反応してくれる姿」を見れば、頑張り具合がある程度わかるように感じている。
II. 安心と信頼に向けた関係づくりと支援			
1. 相談から利用に至るまでの関係づくりとその対応			
23 ○初期に築く本人との信頼関係 相談から利用に至るまでに本人が困っていること、不安なこと、求めていること等を本人自身からよく聴く機会をつくり、受け止める努力をしている。	初期段階には、本人・家族・管理者・計画作成担当者が面談をおこない記録にまとめている。職員がいつでも見られるようにしているが、多忙で目を通すゆりのない職員もいるようだ。 また、可能な限り本人の見学をすすめ、目で見て耳で聞いて心で感じて“説得”ではなくて“納得”してもらおうことを目指している。		
24 ○初期に築く家族との信頼関係 相談から利用に至るまでに家族等が困っていること、不安なこと、求めていること等をよく聴く機会をつくり、受け止める努力をしている。	事前面談記録には、その時点でわかっている家族の状況や考えを記載し、職員がいつでも見られるようにしている。慣れるうちは窓口一本化の方が行き違いないとも思うので、管理者・計画作成担当者が主に対応をしている。		

項目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取組んで きたい項目)	取組んでいきたい内容 (既に取組んでいることも含む)
25	○初期対応の見極めと支援 相談を受けたときに、本人と家族が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている。	すでに他のサービスを利用しており、居宅介護支援事業所の担当ケアマネジャーから紹介を受けることが多い。また、入院中に病院の地域連携室担当者から退院後の相談という形で紹介を受けることもある。		
26	○馴染みながらのサービス利用 本人が安心し、納得した上でサービスを利用するために、サービスをいきなり開始するのではなく、職員や他の利用者、場の雰囲気に徐々に馴染めるよう家族等と相談しながら工夫している。	何度でも足を運んでもらい“説得”ではなくて“納得”して来てもらえるようにしている。		
2. 新たな関係づくりとこれまでの関係継続への支援				
27	○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、一緒に過ごしながら喜怒哀楽を共にし、本人から学んだり、支えあう関係を築いている。	お互い学びあい支え合い生活している。 職員ひとりひとり形は違うかもしれないが、それぞれ関係を築いている。	○	「してやっている」という風に周りに感じさせることのないように、感謝の気持ちを示すことを習慣づけたい。
28	○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、喜怒哀楽を共にし、一緒に本人を支えていく関係を築いている。	情報共有に努め同じ思いで共に支援するように努めている。	○	ざっくばらんな家族と対応していると、つい節度を忘れがちになるが、利用者の家族であることは変わらないので、そのあたりはほどよい距離感を持ちつつ、コミュニケーションを深めたい。
29	○本人と家族のよりよい関係に向けた支援 これまでの本人と家族との関係の理解に努め、よりよい関係が築いていけるように支援している。	日ごろの様子をこまめに伝え、行事への誘いや本人専用のアルバムを作り、なごやかな話題から糸口になるように努めている。		
30	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている。	ひとりひとりの生活慣習をできる限り尊重している。	○	グループホームの新しい生活に慣れてくると、こだわりの部分も中和されがちだが、本人の大事にしている習慣や趣味などは続けられるように支援したい。

項目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取組んでい きたい項目)	取組んでいきたい内容 (既に取り組んでいることも含む)
31	○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるように努めている。	職員が調整役になって利用者同士の支えあいの関係ができるようにしている。	○	利用者同士の関わりあいのプラス部分に、より着目して機会を設けていきたい。
32	○関係を断ち切らない取り組み サービス利用(契約)が終了しても、継続的な関わりを必要とする利用者や家族には、関係を断ち切らないつきあいを大切にしている。	入院した場合にはお見舞いし、お悔やみを耳にしたときには参列している。いずれも管理者が職員一同の代表として顔を出している。行事のときには状況が許されれば誘っている方もいる。		
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント				
1. 一人ひとりの把握				
33	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している。	日々の関わりの中で、言葉や表情などから真意をくみとれるように頑張っている。センター方式C-1-2シートを用いて、ストレートな気持ちが反映されるように努めている。	○	
34	○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている。	入居前の情報に加え、入居後の本人や家族との会話から把握するように努めている。	○	入居後に知り得た情報を書き留めることができればなお良い。
35	○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状を総合的に把握するように努めている。	センター方式のシートを活用して、24時間とだえることなく、気がついたこと・行動・何かのサインや合図など記録して、職員全員で把握できるように努めている。		
2. 本人がより良く暮らし続けるための介護計画の作成と見直し				
36	○チームでつくる利用者本位の介護計画 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、介護支援専門員の適切な監理のもとに、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映した介護計画を作成している。	3週間に1度のペースでケアカンファレンスを開催し、職員で話し合い介護計画を練っている。家族から普段の会話の中で出てくる声をくみいれたり、計画案を見せ説明同意していただいている。 本人の声もくみいれている。何かひとりの職員の気がつきがあれば、職員全員にも問いかけ考え、計画に反映するようにしている。	○	職員が思いめぐらすことがまだ多く、本人・家族・その他の方々にもっと加わってもらえるとなお良いと思う。

項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取組んで きたい項目)	取組んでいきたい内容 (既に取組んでいることも含む)
37 ○現状に即した介護計画の見直し 介護計画の期間に応じて見直しを行うとともに、見直し以前に対応できない変化が生じた場合は、介護支援専門員の適切な監理のもとに、本人、家族、必要な関係者と話し合い、現状に即した新たな計画を作成している。	おおむね3ヶ月に1度を見直しの間隔としている。状態の変化によっては、前倒して見直しをしている。		
38 ○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている。	センター方式のシートを活用しながら、個別のファイルを用意し身体的状況や出来事を記入している。どの職員もいつでも記入でき見られるようにしている。後日記録を拾うことでデータも得やすく、介護計画の見直しに役立っている。	○	シートのサイズA4に、いろいろなことをもれなく書こうとすると文字を小さくせざるを得ない。文字の大きい職員には酷だが、できるだけ小さな文字に協力して欲しい。 文章の表現力や、ケア記録記入の力量も様々なので、事実が伝わり易い記入法を勉強したい。
3. 多機能性を活かした柔軟な支援			
39 ○事業所の多機能性を活かした支援 本人や家族の状況、その時々々の要望に応じて、事業所の多機能性を活かした柔軟な支援をしている。	現在入居中の利用者やその家族の状況によっては、通院や買い物など要望により柔軟な対応をするように努めている。	○	地域の方々にとっては、いざという時に頼りにする場所とはなっていない。また事業所としても、近隣の皆さんに助けてもらうことの方が多い。現時点では、気軽に相談に来られる場所くらいにはなりたいと思っている。
4. 本人がより良く暮らし続けるための地域資源との協働			
40 ○地域資源との協働 本人の意向や必要性に応じて、民生委員やボランティア、警察、消防、文化・教育機関等と協力しながら支援している。	町内会・ボランティアグループ・滝川市ボランティアセンターの皆さんに協力いただいている。		
41 ○他のサービスの活用支援 本人の意向や必要性に応じて、地域の他のケアマネジャーやサービス事業者と話し合い、他のサービスを利用する為の支援をしている。	訪問理容や歯科往診など利用している。		
42 ○地域包括支援センターとの協働 本人の意向や必要性に応じて、権利擁護や総合的かつ長期的なケアマネジメント等について、地域包括支援センターと協働している。	地域包括支援センターが音頭を取って、市内の様々な種類の事業所のケアマネジャーの会議が2ヶ月に1度の頻度で開催されている。		

項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取組んで きたい項目)	取組んでいきたい内容 (既に取組んでいることも含む)
43 ○かかりつけ医の受診支援 本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している。	本人や家族が希望するかかりつけ医に診察してもらっている。原則として家族が通院付き添いをしているが、日常の様子が伝わりやすいように口頭またはメモで伝達をしている。家族の付き添いが難しい場合は職員の付き添いで受診している。		
44 ○認知症の専門医等の受診支援 専門医等認知症に詳しい医師と関係を築きながら、職員が相談したり、利用者が認知症に関する診断や治療を受けられるよう支援している。	砂川市立病院もの忘れ外来は予約で半年待ちという状態で、近隣の協力医の紹介がなければ診察を受けることができないシステムでもあり、受診は現実的ではない。 滝川市立病院精神神経科にかかる方がほとんどである。担当医師は認知症が専門分野ではないと思われるが、話はいねいに聞いてくれると思う。		
45 ○看護職との協働 事業所として看護職員を確保している又は、利用者をよく知る看護職あるいは地域の看護職と気軽に相談しながら、日常の健康管理や医療活用の支援をしている。	週に1度の訪問看護師の来訪があり健康相談にのってもらっている。電話での相談は24時間受け付けてもらっている。小さなことでも相談にのってもらえ安心感がある。		
46 ○早期退院に向けた医療機関との協働 利用者が入院した時に安心して過ごせるよう、また、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて連携している。	入院した場合には、主に管理者がお見舞いと病院関係者に状態確認をしている。職員にはその様子を連絡ノートで知らせている。 症状にもよるが、近頃はこちらから望まなくとも早期退院のケースがほとんどである。		
47 ○重度化や終末期に向けた方針の共有 重度化した場合や終末期のあり方について、できるだけ早い段階から本人や家族等ならびにかかりつけ医等と繰り返し話し合い、全員で方針を共有している。	重度化に関する指針を示し、家族に同意していただいている。 イザの時が、急なのか少しずつの変化なのか誰にもわからないが、ヒトには必ず終わりの時が訪れることを、職員各自自覚していきたい。 センター方式シートC-1-2【私のターミナルや死後についての願いや要望は・・・】の欄も空欄や「死にたくない」といった内容がよくあり、利用者自身もそばにいる職員自身も、踏み込んで考え及ばないのも事実である。	○	「ギリギリまでここにいて最期は病院で」という言葉を家族からはよく聞く。しかし、家族間の中で気持ちは揺れ動くと思像する。 ピンピンコロリとなかなかいかないことは、誰もがうなずけることなので、問題提起の方法を探っていきたい。
48 ○重度化や終末期に向けたチームでの支援 重度や終末期の利用者が日々をより良く暮らせるために、事業所の「できること・できないこと」を見極め、かかりつけ医とともにチームとしての支援に取り組んでいる。あるいは、今後の変化に備えて検討や準備を行っている。	検討や準備はおこなわれていない。グループホーム単独での運営なことや、多くの利用者が公立病院にかかっていることもあり、もしもグループホーム内で終末期を迎えることの希望があれば、チーム編成はかなり難しいと考えられる。 また、北海道の地域性からか病院で晩年を過ごすことも珍しいケースではない。	○	現時点では「できないこと」の方が圧倒的に多いように思う。ここがはじめての介護職経験という職員が90%以上を占める現実もあり、最期の時に近づきつつあるひとを間近で見たことすらない職員もいる。 心構え・技能・行動力を身につけるにはどうしたらよいものか、途方にくれるのが正直な心境でないだろうか。

項目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取組んでい きたい項目)	取組んでいきたい内容 (既に取組んでいることも含む)
49	○住替え時の協働によるダメージの防止 本人が自宅やグループホームから別の居宅へ移り住む際、家族及び本人に関わるケア関係者間で十分な話し合いや情報交換を行い、住替えによるダメージを防ぐことに努めている。	介護添書を持参してもらうほか、管理者が先方の担当者と電話や訪問で情報交換している。		
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援				
1. その人らしい暮らしの支援				
(1)一人ひとりの尊重				
50	○プライバシーの確保の徹底 一人ひとりの誇りやプライバシーを損ねるような言葉かけや対応、記録等の個人情報の取扱いをしていない。	個人情報の保護に留意している。言葉かけや対応は時々配慮不足の時もある。	○	どんなにできた人間だとしても、感情の揺れ動きやうまくゆかない時がある。利用者も職員もそれは同じくあることをまずは素直に認めたい。それをふまえて、対応がうまく立ち行かない場面を前にしたときに、職員間でそつと対応者を交替したり、一人でやって大変なことは周りの職員や状況によっては利用者にも協力してもらえればよい。
51	○利用者の希望の表出や自己決定の支援 本人が思いや希望を表せるように働きかけたり、わかる力に合わせた説明を行い、自分で決めたり納得しながら暮らせるように支援をしている。	本人のペースや希望をくみ取り、自分で選んだり決断するように支援している。今後も職員で決めたことを押し付けないようにしたい。		
52	○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している。	共同生活ということのメリットデメリットもあり、すべてが思い描いた通りに可能なわけではないが、職員が調整したり説明をして理解していただけるよう努めている。	○	職員がリードしていくことも必要であるが、行き過ぎにならぬように気をつけたい。
(2)その人らしい暮らしを続けるための基本的な生活の支援				
53	○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援し、理容・美容は本人の望む店に行けるように努めている。	頭髪や衣服など支援できている事柄もあるが、時々身だしなみが整っていない日もある。その人らしい身だしなみ⇄周囲に認められる身だしなみにズレがあることもあるが、どの職員の勤務の時にもある程度一定の状態にてほしい。	○	メガネの汚れなど意外に盲点なので気をつけたい。ガイドブックにある”職員も当然節度をわきまえつつおしゃれを“の文言も何とも言い難い。時々「なんだいあの恰好は流行っているのかい・・・」と利用者が職員について話していることもあり、個性の表現の難しさも感じる。
54	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員がその人に合わせて、一緒に準備や食事、片付けをしている。	職員が好みのものの聞き取りをして献立作成に活かしている。できる内容に違いはあるが、ともに準備やかたづけをしている。	○	今後もゆとりをもっとともに活動できるように準備していく。

項目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取組んでいる きたい項目)	取組んでいきたい内容 (既に取組んでいることも含む)
55	○本人の嗜好の支援 本人が望むお酒、飲み物、おやつ、タバコ等、好みのものを一人ひとりの状況に合わせて日常的に楽しめるよう支援している。	お酒やたばこをたしなむ方は今はいないが、希望があれば対応可能である。おやつは家族が持ってくるが多く、各自の冷蔵庫などで保存している。賞味期限など気を配り楽しみごとの一つとして支援したい。		
56	○気持ちよい排泄の支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして気持ちよく排泄できるよう支援している。	排泄のチェックシートを使い、パターンをつかむように努めている。状態により、パットや紙パンツなどの種類も見直している。	○	パターンが定まらない場合もあり誘うタイミングが難しいこともあるが、様子を見ながら誘いたい。また、慣れからさりげない対応ができていないこともあるのでこれも気をつけたい。
57	○入浴を楽しむことができる支援 曜日や時間帯を職員の都合で決めず、一人ひとりの希望やタイミングに合わせて、入浴を楽しめるように支援している。	午前中・午後・夕食後のどこかで誘い入浴している。	○	ひとりひとりゆっくりリラックスした時間を過ごしてもらうことはできているので、継続したい。
58	○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、安心して気持ちよく休息したり眠れるよう支援している。	ひとりひとりの様子をみながら、午前中の仮眠や日中の休息をすすめている。夜間眠れない傾向にある方は、医師に相談して薬剤を処方してもらうこともある。夜勤者がゆっくり話し相手になったり、何度となく居間と自室の往復を繰り返しても、その都度応えている。		
(3) その人らしい暮らしを続けるための社会的な生活の支援				
59	○役割、楽しみごと、気晴らしの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、楽しみごと、気晴らしの支援をしている。	ひとりひとりの力量に応じ、米とぎ・ブラインドの開閉・畑作業・回覧板届けなどなど、さまざまな役割を担っていただいている。	○	スタッフ主導になりすぎないように気をつけたい。
60	○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している。	本人の力量や状態に応じて、家族とも相談しながら金銭の扱いをしている。		

項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取組んで きたい項目)	取組んでいきたい内容 (既に取組んでいることも含む)
61 ○日常的な外出支援 事業所の中だけで過ごさずに、一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援している。	散歩・ドライブなどが多いが出かけている。	○	希望をあらわしにくい方への支援も視野に入れたい。 また、寒冷地がゆえ冬場は外出を控えがちになるのは仕方がないと思われるので、外出以外の気分転換を図りたい。
62 ○普段行けない場所への外出支援 一人ひとりが行ってみたい普段は行けないところに、個別あるいは他の利用者や家族とともに出かけられる機会をつくり、支援している。	全員参加の行事として出かけたり、希望があれば個人の遠出に職員と一緒に出かけられることもある。それぞれの家庭の諸事情により、願いがかなわないこともあるのは仕方がないと思うしかないのだろうか。		
63 ○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援している。	新たに公衆電話を設置して、自由に会話できるようにしている。 家族からの手紙や葉書きは随時渡している。	○	絵手紙や年賀状など、楽しみながら取り組めないだろうか。
64 ○家族や馴染みの人の訪問支援 家族、知人、友人等、本人の馴染みの人たちが、いつでも気軽に訪問でき、居心地よく過ごせるよう工夫している。	いつでも居心地よく過ごせるように、気軽に声をかけたり自室でゆっくり過ごしていただいている。		
(4) 安心と安全を支える支援			
65 ○身体拘束をしないケアの実践 運営者及び全ての職員が「介護保険法指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、身体拘束をしないケアに取り組んでいる。	勉強会・研修・スタッフ会議などで学び、身体拘束をしないケアを実践している。	○	スピーチロックの可能性もあり、ケアカンファレンスなどで話題に出したい。
66 ○鍵をかけないケアの実践 運営者及び全ての職員が、居室や日中玄関に鍵をかけることの弊害を理解しており、鍵をかけないケアに取り組んでいる。	日中は鍵をかけていない。センサー設置して外出の察知に気を配っている。 しかし、外出察知が十分ではなく、通りがかりの人に教えてもらったこともある。	○	不審者などの情報もあり、防犯の意味からは日中も施錠したい。 戸外に出る傾向のある方が玄関に行くだけで「○○○どこ行くの？」と声を荒げないように気をつけたい。

項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取組んで きたい項目)	取組んでいきたい内容 (既に取組んでいることも含む)
67 ○利用者の安全確認 職員は、プライバシーに配慮しながら、昼夜通して利用者の所在や様子を把握し、安全に配慮している。	昼夜問わず様子を把握するようにしている。夜間はすべての場所を3時間おきに見回っている他、ひとりひとりの状況によって随時確認や声かけをおこなっている。	○	職員の思い込みや確認不足から、事故・けが・行方不明につながらないように気をつけたい。
68 ○注意の必要な物品の保管・管理 注意の必要な物品を一律になくすのではなく、一人ひとりの状態に応じて、危険を防ぐ取り組みをしている。	菓は常に鍵をかけて保管している。包丁や洗剤・せっけんなどは夜間のみ施錠した場所に保管している。本人の状況により、家具の配置替えをしたりしている。ろうそく、線香、マッチ、果物ナイフ、裁縫道具などを自室に置いている方もいるが、管理が難しくなった時点で、家族と相談をして職員が預かる場合もある。		
69 ○事故防止のための取り組み 転倒、窒息、誤薬、行方不明、火災等を防ぐ為の知識を学び、一人ひとりの状態に応じた事故防止に取り組んでいる。	事故報告、ヒヤリハット報告など書面にまとめている。ケアカンファレンスの時間の中で対応策や防止策を皆で考え、再発防止に努めている。		
70 ○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備え、全ての職員が応急手当や初期対応の訓練を定期的に行っている。	緊急マニュアルを準備している。また、年に1回全職員が救命講習を受講して応急処置の方法をおさらいしている。AEDを1台設置している。	○	あわてやすい性格もあると思うが、その方のために出来ることをやるのが職員のつとめなので、とっさの時には度胸を持って対応できるようにしたい。
71 ○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を身につけ、日ごろより地域の人々の協力を得られるよう働きかけている。	避難訓練をおこなっている。また、スプリンクラー設置へ向けて準備をしている。ちょうど加入している町内会が、今年度は市の防災モデル地区となっているため、防災教室に職員と利用者数名で参加してきている。		
72 ○リスク対応に関する家族との話し合い 一人ひとりに起こり得るリスクについて家族等に説明し、抑圧感のない暮らしを大切にしたい対応策を話し合っている。	行動にはリスクがともなうことを説明している。	○	説明はしているが、充分とはいえないので今後もわかりやすくいろいろな可能性を提示したい。

項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取組んで きたい項目)	取組んでいきたい内容 (既に取組んでいることも含む)
(5) その人らしい暮らしを続けるための健康面の支援			
73 ○体調変化の早期発見と対応 一人ひとりの体調の変化や異変の発見に努め、気づいた際には速やかに情報を共有し、対応に結び付けている。	毎日バイタルチェックを行ない、体調の変化を見逃さないように気をつけている。気づいた時には、訪問看護ステーションに相談したり、早めの受診をしている。		
74 ○服薬支援 職員は、一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている。	薬局からの服薬内容シートはいつでも見られるようにしている。また、内服のチェック版を用い、日々の確認をしている。	○	薬の内容も多岐にわたりむずかしいのも事実だが、もう少し効用や副作用について各自学習が必要ではないかを感じる。分厚い本を広げなくても、薬局からの服薬内容シートを読み込むだけでも勉強になると思う。
75 ○便秘の予防と対応 職員は、便秘の原因や及ぼす影響を理解し、予防と対応のための飲食物の工夫や身体を動かす働きかけに取り組んでいる。	水分量に気を配り、便秘解消に効果ありとされるゴボウ、キノコ類、コンニャク、ひじきなどを継続して食事に組み込むようにしている。また、起床してから朝食までのあいだに牛乳を飲むようにしている。午後、毎日簡単な運動や、ビデオを見ながら一緒にラジオ体操をしている。		
76 ○口腔内の清潔保持 口の中の汚れやおいが生じないように、毎食後、一人ひとりの口腔状態や力に応じた支援をしている。	ひとりひとりのできる内容に応じて、毎食後の歯みがきや義歯の手入れを支援している。		
77 ○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている。	水分量の把握やバランスのよい食事を心がけている。食の細かい方や食欲にムラのある方へは、補助的にゼリーや食事以外にも合間でいろいろな物をすすめている。また、地域包括支援センターに相談をし、あくまでもテストケースで今年度限定ではあるが市の栄養士に3ヶ月に1度の頻度で栄養アドバイスをいただいている。	○	体重の推移など注意深く見ていきたい。
78 ○感染症予防 感染症に対する予防や対応の取り決めがあり、実行している(インフルエンザ、疥癬、肝炎、MRSA、ノロウイルス等)	インフルエンザ予防接種を利用者も職員も全員受けている。その他の感染症については、対策や万が一発生した場合の対処法を記載している。日常の手洗い・うがいは徹底的におこなっている。毎日、手すり・ドアノブ・履物の裏・いすなどを消毒している。		

項目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取組んでいきたい項目)	取組んでいきたい内容 (既に取組んでいることも含む)
79	○食材の管理 食中毒の予防のために、生活の場としての台所、調理用具等の衛生管理を行い、新鮮で安全な食材の使用と管理に努めている。	ふきん、まな板、スポンジ、三角コーナーなど毎食後欠かさずに消毒している。台所や冷蔵庫内も清潔に気をつけている。 食材も工夫して早めに使い切るように努めている。		
2. その人らしい暮らしを支える生活環境づくり (1)居心地のよい環境づくり				
80	○安心して出入りできる玄関まわりの工夫 利用者や家族、近隣の人等にとって親しみやすく、安心して出入りができるように、玄関や建物周囲の工夫をしている。	ベンチや鉢花を置いて、明るい玄関回りを保つように努めている。	○	夏場は、利用者と職員だけではなく、近隣の方も立ち止まり腰をおろしていけるような場所を考えてみたい。
81	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)は、利用者にとって不快な音や光がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている。	生活の雰囲気や季節感は感じていただけているように思う。		
82	○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中には、一人になれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている。	廊下が広いことを活用して、手すりの邪魔にならない場所にベンチやソファを置いて、少人数やひとりの居場所が作られている。		
83	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使いなれたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている。	物へのこだわりや、要る物と要らない物の仕分けは大変個人差があり一概には言えない。 もう少し、本人が大切にしているものを持ち込んで欲しい方もいれば、安全上片づけが必要な方もいる。	○	入居して月日が経つと、行事の時のカードやポスターや写真など増えていくが、いつまでも飾りっぱなしではなく、写真に撮りアルバムに貼ったりなどして思い出は失わず、でも室内は清潔に居心地よく保ってあげたい。
84	○換気・空調の配慮 気になるにおいや空気のだよみがないよう換気に努め、温度調節は、外気温と大きな差がないように配慮し、利用者の状況に応じてこまめに行っている。	換気の実施、消臭剤の利用、温度調節の確認、結露対策など気をつけている。	○	利用者と比較すると、年齢も若く活動量も多い職員を基準に考えるのではなく、利用者の立場になって温度調節することを忘れずにいたい。

項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取組んで きたい項目)	取組んでいきたい内容 (既に取組んでいることも含む)	
(2) 本人の力の発揮と安全を支える環境づくり				
85	<p>○身体機能を活かした安全な環境づくり</p> <p>建物内部は一人ひとりの身体機能を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している。</p>	<p>手すりや滑り止めなどを設置したり、段差が少なく車イスでの生活も可能である。障害物も極力おかず整理整頓するように努めている。</p>	○	<p>体格によっては浴槽が深いということもあるようだが、浴槽そのものの取り換えは難しいので、浴槽内に置ける台を使って工夫したい。</p>
86	<p>○わかる力を活かした環境づくり</p> <p>一人ひとりのわかる力を活かして、混乱や失敗を防ぎ、自立して暮らせるように工夫している。</p>	<p>状態は変わることもあるが、その都度何が混乱を招いているのかを見極めながら、創意工夫をしたい。</p>	○	<p>空間の狭さは変えられないが、台所回りの整理整頓に努め、利用者が立ち入りやすいように配慮したい。</p>
87	<p>○建物の外回りや空間の活用</p> <p>建物の外回りやベランダを利用者が楽しんだり、活動できるように活かしている。</p>	<p>畑作業、玄関前のベンチで談笑、洗濯物を干したり、ひさしの下で焼肉をしたりなど楽しんでいる。</p>		

V. サービスの成果に関する項目		
	項目	取り組みの成果
88	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる	①ほぼ全ての利用者 ②利用者の2/3くらい ③利用者の1/3くらい ④ほとんど掴んでいない ②
89	利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある	①毎日ある ②数日に1回程度ある ③たまにある ④ほとんどない ①
90	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている	①ほぼ全ての利用者 ②利用者の2/3くらい ③利用者の1/3くらい ④ほとんどいない ①
91	利用者は、職員が支援することで生き生きした表情や姿が見られている	①ほぼ全ての利用者 ②利用者の2/3くらい ③利用者の1/3くらい ④ほとんどいない ③
92	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている	①ほぼ全ての利用者 ②利用者の2/3くらい ③利用者の1/3くらい ④ほとんどいない ③
93	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている	①ほぼ全ての利用者 ②利用者の2/3くらい ③利用者の1/3くらい ④ほとんどいない ②
94	利用者は、その時々々の状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らせている	①ほぼ全ての利用者 ②利用者の2/3くらい ③利用者の1/3くらい ④ほとんどいない ②
95	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができています	①ほぼ全ての家族 ②家族の2/3くらい ③家族の1/3くらい ④ほとんどできていない ②

V. サービスの成果に関する項目		
項目	取り組みの成果	
96	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている	①ほぼ毎日のように ②数日に1回程度 ③たまに ④ほとんどない ③
97	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが広がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている。	①大いに増えている ②少しずつ増えている ③あまり増えていない ④全くいない ②
98	職員は、生き生きと働いている	①ほぼ全ての職員が ②職員の2/3くらいが ③職員の1/3くらいが ④ほとんどいない ③
99	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	①ほぼ全ての利用者が ②利用者の2/3くらいが ③利用者の1/3くらいが ④ほとんどいない ③
100	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	①ほぼ全ての家族等が ②家族等の2/3くらいが ③家族等の1/3くらいが ④ほとんどいない ②

【特に力を入れている点・アピールしたい点】

(日々の実践の中で事業所として力を入れて取り組んでいる点・アピールしたい点等を自由記載)

利用者・家族・地域等、挨拶、感謝を大切にし、日々小さいながらも努力していき、親しみを持たれる様取り組んでいきます。